

「平成29年度『学びのスタンダード』推進事業」の推進地域の取組

パイロット校名 郡山市立大槻中学校、大槻小学校

大槻中学校区の「学びのスタンダード」

本推進地域では、「学びのスタンダード」推進事業の取組として、より質の高い充実した授業を通して、知識・技能の習得及びそれらを活用して問題を解決する思考力・判断力・表現力を育成し、児童生徒の学力向上を図るために、以下のような取組を行った。

1 推進地域における「授業スタンダード」の活用について

大槻中

- (1) 現職教育全体会、校内研修会で確認し、授業研究会（一人一授業実践）や普段の授業づくりに生かす。
- (2) 「学びのスタンダード」授業研究発表会での指針として、「教材との出会い」や「ペアやグループでの話し合い」など授業改善の視点に基づく指導案を作成し授業を行う。
- (3) 若手教員の授業づくりに生かす。

大槻小

- (1) 授業づくりや現職教育全体会で生かす。
現職教育全体会では、「授業スタンダード」に記載されている事項を確認しながら研修を深めるようにした。
指導案作成にあたっては、本校の課題や児童の実態を考慮し、「授業スタンダード」の中の「教師の働きかけ」、「主体的・対話的で深い学びの実現に向けて」から、本時で取り組みたいことを取り上げるようにした。
- (2) 事後研究会での活用
「授業スタンダード」を基に、本時で取り組んだ内容の目的と手立てが効果的であったかについて事後研究会で振り返り、成果と課題を次の授業に生かすようにした。
- (3) チェックシートの活用
「授業スタンダード」に基づく授業をどれだけ行うことができたか、「授業スタンダード・チェックシート」を活用することにより、教師が自分の授業を振り返った。
6月に行ったチェックの平均点と、各自の研究授業が終わった時点での平均点を項目ごとにまとめて比較した。

2 パイロット校の取組内容

大槻中

- (1) 数学科における「タテ持ち」の取組について
A、B、C教諭が「タテ持ち」指導を行っている。具体的には、右表のような指導体制をとった。

	1組	2組	3組	4組
1年	C教諭 (D1)	A教諭 (D1)	C教諭 (D1)	A教諭 (D1)
2年	A教諭 (D2)	B教諭 (D2)	A教諭 (D1,C1)	B教諭 (D1,C1)
3年	B教諭 (D2)	C教諭 (D2)	C教諭 (D2)	B教諭 (D2)

表内の()の数はT T等の時数

(2) T T授業について

A、B、C教諭が主にT 1、D教諭が主にT 2のT T指導や基本コース、発展コースの個人選択制の習熟度別指導を行った。

1年生：1時間／週4時間

2年生：2時間／週4時間

3年生：2時間／週4時間

大槻小

(1) 教科担任制の取組について

5学年で、3人の学級担任と「学びのスタンダード」加配の4人で、8教科で教科担任制を取り入れた。各教科の担当は以下の表の通りである。

	書写	社会	算数	理科	音楽	図工	家庭	英語表現
1組	A教諭	B教諭	C教諭	A教諭	D教諭	A教諭	B教諭	C教諭
2組	A教諭	B教諭	C教諭	D教諭	D教諭	A教諭	B教諭	C教諭
3組	A教諭	B教諭	C教諭	D教諭	D教諭	A教諭	B教諭	C教諭

(2) 推進教師の役割について

- ① 研究体制作り
- ② 授業研究会の計画・運営、事後研究会の活性化（ワールドカフェ形式）

3 成果と次年度へ向けて

(1) 成果について

大槻中

- ① 学年を複数教師で指導するため、臨時教科部会を開き、教師間で話合う機会を増やしたことにより、質の高い授業の構築や指導方法の共通理解をすることができた。
- ② T T指導や習熟度別指導により、2学年において上位層のレベルアップ、下位層の減少につながった。（第2回達成度テスト 平成28年度1学年同テスト比）

大槻小

- ① 「授業スタンダード」を意識した授業実践が行われ、授業力の向上につながった。チェックシートによる平均点の比較でも、ほとんどの項目で向上が見られた。
- ② 教科担任制の実施により、児童の学習への意欲が高まった。教師の専門性を生かすことができるとともに、生徒指導の課題にも学年全体で対応することができた。

(2) 次年度に向けて

大槻中

- ① 生徒のアンケート、教師のチェックシート等の客観的データの蓄積と解析を行い、指導方法や指導体制（効果的な習熟別指導）を見直す。
- ② 「家庭学習スタンダード」を生かした効果的な家庭学習のあり方を全職員が協働・連携して検討する。

大槻小

- ① 校内研修会をさらに活性化させ、質の高い授業づくりに努めていく。教科担任制では、T Tを取り入れたり、担当教科を見直したりして、指導体制の改善を図る。
- ② 授業と家庭学習をつなげ、「家庭学習スタンダード」や自校の「家庭学習の手引き」を活用し、家庭学習を充実させていく。